

第76回しずない農業協同組合通常総会

全5議案原案通り可決される



4月5日、新ひだか町公民館において「第76回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。今年度の総会につきましては、社会的にコロナ禍の正常化に向けた取り組みを開始しているところであり、当JAにおきましても、コロナ禍以前と同様のご案内をさせていただき開催致しました。

冒頭では、西村会長理事より「昨年5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行し日常生活もやつと以前の状況に戻りつつあります。

令和5年度の農業情勢はやはり国際情勢の不安定要素が続いており、円安の進行による飼料、肥料をはじめとする生産資材の高止まりが農業経営に与える影響は、甚大なものとなっております。又それに加え夏場の猛暑による記録的な影響は大きく、苦労の絶えない1年でありました。

この様な状況の中、昨年の当JAの販売は、基幹作物のミニトマトは、高温障害により、収量、販売額とも前年実績を若干下回る販売額8億1,700万円となりました。又、ハウレン草など他野菜を含め野菜全体では、8億7,500万円となり、本年も3組6名の新規就農者が営農開始され、又、新たに1組2名が研修に入るという事で目標の販売額10億に向けまして、暑熱対策や、新たな作型等、収量の向上により所得確

保に取り組んで参ります。又、それと共に担い手支援協議会としての新たな強化取り組みを行っていきたいと思います。

黒毛和牛は、平均価格の前年比較が安値で推移しており、年間販売額791頭で4億7,400万となりました。やはり、昨年から続いている生産コストの上昇と消費の動向に大きく影響され価格が乱高下している状況です。生産者の高齢化による農家戸数と飼養頭数の減少も見られてきました。今後は増頭も含めて肥育までの一貫生産や経費削減の対応、新規の生産者の参入などを考えていかなければならないと思います。

酪農は一昨年より引き続き配合飼料などの高騰、牛乳・乳製品の消費の落ち込みから酪農経営自体が非常に厳しい1年でした。又高齢化などによる、4件の酪農家の撤退もあり、販売額は3億2,800万円となりました。今後は現在営農されている農家の皆さんと、アウトサイダーの生産者の皆さんで地域酪農を守っていきたいと思います。

水稲は、作況104のやや良でありました。猛暑の影響があり、収量が若干落ち込みましたが、品質の面

ではタンパク質も含め、高品質の米を収穫する事が出来ました。令和4年産『万馬券』も好調な販売になり早期に売り切れとなりました。米全体の販売額は、計画を上回る7,898万円となり、消費者には、大変喜ばれている所です。又、地元、酒米「静内彗星」による「海桜丸」も年々評判が良く今年度も4月に販売を予定しております。

もう一つの基幹産業である軽種馬については、前年を上回る販売額となり504頭で61億4千万円、売却率80.1%と過去最高を更新致しました。北海道市場全体も過去最高の170億となり、活気に満ち溢れた市場となりました。

当JAの令和5年度の農産物の販売は軽種馬を除いて全体で18億1,000万円となり計画より約1億4,000万円の減少となりました。当JAの農業振興5か年も最終年度を迎え、今一度、基本計画の目標の値を検証する必要があります。又、世界的な経済環境の変化での生産資材の値上げ、高温障害など行政、組織支援は元より、農家自らの工夫も必要となってくると思います。

農協としても、令和5年度の営農